

基本計画書

基本計画書									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更								
フリガナ設置者	コウリツダイガクホウジン ヨコハマシリツダイガク 公立大学法人 横浜市立大学								
フリガナ大学の名称	ヨコハマシリツダイガク 横浜市立大学 (Yokohama City University)								
大学本部の位置	神奈川県横浜市金沢区瀬戸22番2号								
大学の目的	<p>本学は、発展する国際都市・横浜と共に歩み、教育に重点を置き、幅広い教養と高い専門的能力の育成を目指す実践的な国際教養大学として、教養教育と専門教育を有機的に結び付け、国際都市横浜にふさわしい国際性、創造性、倫理観を持った人材を育てるとともに、教育・研究・運営が、市民・横浜市・市内産業界及び医療の分野をはじめとする多様な市民社会の要請に迅速に応えることを目的とする。</p>								
新設学部等の目的	<p>【データサイエンス研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 膨大なデータを収集し、分析に必要なデータ解析の理論や手法にかかる「データアナリティクス力」、及びコンピューターを駆使し、データを意味ある形に変換し、データを活用できるようにする「データエンジニアリング力」を修得する。社会潮流の把握に基づく課題背景の理解を基盤として、膨大なデータの分析から創出する新たな価値を社会実装する能力を有し、「社会展開力」に収れんさせることができる「データサイエンス人材」を育成する。 人類社会の持続的な発展のため、データの利活用による新たな価値創出と社会実装に力点を置くとともに、伝統的な知識体系の中での新規性が評価される従来の学問体系を踏まえつつも、データの利活用により現実社会の問題解決に貢献することが主要な基準となるデータサイエンス分野の特質を踏まえた学術的な研究を行い、その成果をグローバルに展開することを目指す。 <p>【ヘルスデータサイエンス専攻(D)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ヘルスサイエンスにかかる高度な学術的知見を背景として、人口構造の変化に応じた保健医療提供体制の維持、健康格差の拡大、新興感染症・再興感染症の流行など、人類の抱える健康、医療の社会的・学術的意義の大きい課題を発見し、データサイエンスの手法を駆使して、適切な課題解決策を提示し、PDCAを実行することにより、幅広い社会領域で活躍し、国際社会に通用するデータサイエンス人材を育成する。 現状の社会的需要等を考慮して、3つの専門領域(生物統計学、研究デザイン学、ヘルス情報テクノロジー学)を更に深め、ヘルスデータサイエンスの高度な手法を駆使したヘルスデータの利活用を通じて人類の抱える健康、医療の社会的・学術的意義の大きい課題を発見する。高度なヘルスデータサイエンス技術を適用し、人類のかかえる諸課題に解決策を提示することにより社会に貢献する。 								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部等】データサイエンス研究科ヘルスデータサイエンス専攻(M)
	データサイエンス研究科 [Graduate School of Data Science] ヘルスデータサイエンス専攻(D) [Department of Health Data Science] 計	年	人	年次人	人	博士 (ヘルスデータサイエンス)	年 月 第 年次 令和5年4月 第1年次	神奈川県横浜市金沢区 瀬戸22番2号	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		-	3	-	9		-	-	

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
	データサイエンス 研究科 ヘルスデータサイエ ンス 専攻(D)	10科目	7科目	1科目	18科目	20単位		
教	学部等の名称	専任教員等						兼 任 教 員 等
		教授	准教授	講師	助教	計	助手	
新 分 設	データサイエンス研究科 ヘルスデータサイエンス専攻(D)	3 (3)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	3 (3)
	計	3 (3)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	3 (3)
既 員	都市社会文化研究科 都市社会文化専攻(M)	19 (19)	17 (17)	0 (0)	0 (0)	36 (36)	0 (0)	19 (19)
	都市社会文化研究科 都市社会文化専攻(D)	16 (16)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	23 (23)	0 (0)	3 (3)
組	国際マネジメント研究科 国際マネジメント専攻(M)	13 (13)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	23 (23)
	国際マネジメント研究科 国際マネジメント専攻(D)	13 (13)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	4 (4)
織	生命ナノシステム科学研究科 物質システム科学専攻(M)	9 (9)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	17 (17)
	生命ナノシステム科学研究科 物質システム科学専攻(D)	9 (9)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	12 (12)
の	生命ナノシステム科学研究科 生命環境システム科学専攻(M)	11 (11)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	23 (23)
	生命ナノシステム科学研究科 生命環境システム科学専攻(D)	11 (11)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	16 (16)
設	生命医科学研究科 生命医科学専攻(M)	12 (12)	8 (8)	0 (0)	4 (4)	24 (24)	0 (0)	34 (34)
	生命医科学研究科 生命医科学専攻(D)	12 (12)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	22 (22)
概	医学研究科 医科学専攻(M)	30 (30)	42 (42)	35 (35)	95 (95)	202 (202)	0 (0)	3 (3)
	医学研究科 医科学専攻(D)	46 (46)	83 (83)	76 (76)	151 (151)	356 (356)	0 (0)	3 (3)
分	医学研究科 看護学専攻(M)	7 (7)	8 (8)	7 (7)	5 (5)	27 (27)	0 (0)	3 (3)
	医学研究科 看護学専攻(D)	7 (7)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	3 (3)
要	データサイエンス研究科 データサイエンス専攻(M)	7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	18 (18)
	データサイエンス研究科 データサイエンス専攻(D)	7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	3 (3)
	データサイエンス研究科 ヘルスデータサイエンス専攻(M)	3 (3)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	8 (8)
	計	232 (232)	217 (217)	120 (120)	255 (255)	824 (824)	0 (0)	214 (214)
	合計	235 (235)	221 (221)	122 (122)	255 (255)	833 (833)	0 (0)	217 (217)
教員以外の職員の概要	職 種	専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員	152 (152)		108 (108)		260 (260)		
	技 術 職 員	13 (13)		25 (25)		38 (38)		
	図 書 館 専 門 職 員	7 (7)		6 (6)		13 (13)		
	そ の 他 の 職 員	2 (2)		1 (1)		3 (3)		
	計	174 (174)		140 (140)		314 (314)		

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	132,769.06㎡	— ㎡	— ㎡	132,769.06㎡					
	運 動 場 用 地	46,200.90㎡	— ㎡	— ㎡	46,200.90㎡					
	小 計	178,969.96㎡	— ㎡	— ㎡	178,969.96㎡					
	そ の 他	85,193.61㎡	— ㎡	— ㎡	85,193.61㎡					
合 計	264,163.57㎡	— ㎡	— ㎡	264,163.57㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		105,735.94㎡ (105,735.94㎡)	— ㎡ (— ㎡)	— ㎡ (— ㎡)	105,735.94㎡ (105,735.94㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	58室	107室	47室	14室 (補助職員一人)	3室 (補助職員一人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		データサイエンス研究科 ヘルスデータサイエンス専攻(D)		4 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	研究科単位での 特定不能なため、 大学全体の 数		
	データサイエンス研究科 ヘルスデータサイエンス専攻 (D)	924,148 [231,395] (906,723 [228,579])	23,268 [6,149] (23,268 [6,149])	21,700 [20,221] (21,700 [20,221])	5,194 (4,824)	0 ()	0 ()			
	計	924,148 [231,395] (906,723 [228,579])	23,268 [6,149] (23,268 [6,149])	21,700 [20,221] (21,700 [20,221])	5,194 (4,824)	0 ()	0 ()			
図 書 館		面積	閲覧座席数	取 納 可 能 冊 数		大学全体				
		13,802.27㎡	843席	1,053,583冊						
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
		10,671.63㎡	野球用グラウンド	テニスコート他						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入経費については、電子 ジャーナル、 データベース、 その他の経費 (運用コストを 含む。)を計上	
	教員1人当り研究費等		546千円	546千円	546千円	—	—	—		
	共同研究費等		3,558,236千円	3,558,236千円	3,558,236千円	—	—	—		
	図書購入費	205,670千円	205,670千円	205,670千円	205,670千円	—	—	—		
	設備購入費	1,000,000千円	1,000,000千円	1,000,000千円	1,000,000千円	—	—	—		
	学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
市内出身者	676.8千円	535.8千円	535.8千円	—	—	—	—			
市外出身者	817.8千円	535.8千円	535.8千円	—	—	—	—			
学生納付金以外の維持方法の概要		横浜市からの運営交付金等								
大 学 の 名 称 横浜市立大学										
既 設 大 学 等 の 状 況	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	平成30年度より 学生募集停止
	国際総合科学部 国際総合科学科	4	—	—	—	学士(国際教養学) 学士(経営学) 学士(経済学) 学士(会計学) 学士(理学) 学士(学術)	—	平成 17年度	神奈川県横浜市金沢 区瀬戸22番2号	
	国際教養学部 国際教養学科	4	270	—	1080	学士(学術)	1.08	平成 31年度	神奈川県横浜市金沢 区瀬戸22番2号	
	国際商学部 国際商学科	4	260	—	1040	学士(経営学) 学士(経済学)	1.06	平成 31年度	神奈川県横浜市金沢 区瀬戸22番2号	

既設大学等の状況	理学部 理学科	4	120	-	480	学士（理学）	1.08	平成31年度	神奈川県横浜市金沢区瀬戸22番2号
	データサイエンス学部 データサイエンス学科	4	60	-	240	学士（データサイエンス）	1.06	平成30年度	神奈川県横浜市金沢区瀬戸22番2号
	医学部 医学科	6	90	-	540	学士（医学）	1.00	昭和27年度	神奈川県横浜市金沢区福浦3丁目9番地
	看護学科	4	100	-	400	学士（看護学）	1.05	平成17年度	神奈川県横浜市金沢区福浦3丁目9番地
	都市社会文化研究科 都市社会文化専攻 （博士前期課程）	2	20	-	40	修士（学術）	1.02	平成21年度	神奈川県横浜市金沢区瀬戸22番2号
	（博士後期課程）	3	3	-	9	博士（学術）	1.22		
	国際マネジメント研究科 国際マネジメント専攻 （博士前期課程）	2	20	-	40	修士（経済学・経営学）	1.07	平成21年度	神奈川県横浜市金沢区瀬戸22番2号
	（博士後期課程）	3	3	-	9	博士（経済学・経営学）	0.66		
	生命ナノシステム科学研究科 物質システム科学専攻 （博士前期課程）	2	30	-	60	修士（理学）	0.93	平成25年度	神奈川県横浜市金沢区瀬戸22番2号
	（博士後期課程）	3	5	-	15	博士（理学）	0.53		
	生命環境システム科学専攻 （博士前期課程）	2	30	-	60	修士（理学）	0.93	平成25年度	神奈川県横浜市金沢区瀬戸22番2号
	（博士後期課程）	3	5	-	15	博士（理学）	0.00		
	生命医科学研究科 生命医科学専攻 （博士前期課程）	2	40	-	80	修士（理学）	0.92	平成25年度	神奈川県横浜市鶴見区末広町1丁目7番29号
	（博士後期課程）	3	10	-	30	博士（理学）	0.90		
	データサイエンス研究科 データサイエンス専攻 （博士前期課程）	2	20	-	40	修士（データサイエンス）	1.15	令和2年度	神奈川県横浜市金沢区瀬戸22番2号
	（博士後期課程）	3	3	-	9	博士（データサイエンス）	1.00		
	ヘルスデータサイエンス専攻 （博士前期課程）	2	12	-	24	修士（ヘルスデータサイエンス）	1.03	令和2年度	神奈川県横浜市金沢区瀬戸22番2号
	医学研究科 医科学専攻 （修士課程）	2	20	-	40	修士（医科学）	0.92	平成10年度	神奈川県横浜市金沢区福浦3丁目9番地
	（博士課程）	4	80	-	320	博士（医学）	0.93		
	看護学専攻 （博士前期課程）	2	25	-	50	修士（看護学）	0.72	平成22年度	神奈川県横浜市金沢区福浦3丁目9番地
（博士後期課程）	3	6	-	18	博士（看護学）	0.72	平成30年度		

附属施設の概要	<p>名 称 : 横浜市立大学附属病院 目 的 : 病院は診療, 教育及び研究の機関として, 市民医療, 医療人の育成及び研究等に寄与することを目的とする。 所在地 : 神奈川県横浜市金沢区福浦3丁目9番地 設置年月 : 昭和29年4月 規模等 : 敷地面積 : 27,296.30㎡ , 建物 : 64,375.16㎡</p>	
	<p>名 称 : 横浜市立大学附属市民総合医療センター 目 的 : 病院は診療, 教育及び研究の機関として, 市民医療, 医療人の育成及び研究等に寄与することを目的とする。 所在地 : 神奈川県横浜市南区浦舟町4丁目57番地 設置年月 : 平成3年7月 規模等 : 敷地面積 : 18,493.50㎡ , 建物 : 83,521.00㎡</p>	
	<p>名 称 : 木原生物学研究所 目 的 : 遺伝子情報を基にしたバイオテクノロジーで, 最先端の植物科学を研究し, 実社会に役立てる研究・教育を目的とする。 所在地 : 神奈川県横浜市戸塚区舞岡町641番12号 設置年月 : 昭和59年4月 規模等 : 敷地面積 : 27,307.51mm² , 建物 : 8,752.21㎡</p>	
	<p>名 称 : 先端医科学研究センター 目 的 : がんや生活習慣病, 免疫アレルギー疾患等の疾患克服に向け, 基礎研究の成果を臨床の現場で実践するトランスレーショナルリサーチ体制の確立を目的とする。 所在地 : 神奈川県横浜市金沢区福浦3丁目9番地 設置年月 : 平成24年12月 規模等 : 敷地面積 : 67,173.50㎡ , 建物 : 3,408.93㎡</p>	

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合, 「計画の区分」, 「新設学部等の目的」, 「新設学部等の概要」, 「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず, 斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については, 共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は, 「教育課程」, 「教室等」, 「専任教員研究室」, 「図書・設備」, 「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず, 斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は, 「教育課程」, 「校地等」, 「校舎」, 「教室等」, 「専任教員研究室」, 「図書・設備」, 「図書館」, 「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず, 斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には, 実技も含むこと。
- 6 空欄には, 「-」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要															
(データサイエンス研究科 ヘルスデータサイエンス専攻 博士後期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
必修科目	ヘルスデータサイエンス特別講義Ⅰ	1前	2			○			1	1					オムニバス オムニバス
	ヘルスデータサイエンス特別講義Ⅱ	1後	2			○			2	4	2				
	ヘルスデータサイエンス特別演習Ⅰ	1前	2				○		3	4	2				
	ヘルスデータサイエンス特別演習Ⅱ	1後	2				○		3	4	2				
	ヘルスデータサイエンス特別演習Ⅲ	2前	2				○		3	4	2				
	ヘルスデータサイエンス特別研究指導Ⅰ	2前	2				○		3	4	2				
	ヘルスデータサイエンス特別研究指導Ⅱ	2後	2				○		3	4	2				
	ヘルスデータサイエンス特別研究指導Ⅲ	3前	2				○		3	4	2				
	ヘルスデータサイエンス特別研究指導Ⅳ	3後	2				○		3	4	2				
小計(9科目)	—	18	0	0	—	—	—	3	4	2	0	0			
選択科目	ヘルスデータサイエンス特別講義A	1・2・3前		2		○			1		1				オムニバス※演習
	ヘルスデータサイエンス特別講義B	1・2・3後		2		○			2	1					オムニバス※演習
	小計(2科目)	—	0	4	0	—	—	—	3	1	1	0	0		
自由科目	大学院・キャリア形成実習	1・2・3集中			1			○							兼2
	大学院・日本語入門Ⅰ	1・2・3前・後			2	○									兼1
	大学院・日本語入門Ⅱ	1・2・3前・後			2	○									兼1
	大学院・日本語Ⅰ	1・2・3前・後			2	○									兼1
	大学院・日本語Ⅱ	1・2・3前・後			2	○									兼1
	大学院・日本語Ⅲ	1・2・3前・後			2	○									兼1
	大学院・日本語実践	1・2・3前・後			1	○									兼1
	小計(7科目)	—	0	0	12	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼3
合計(18科目)			—	18	4	12	—	—	3	4	2	0	0	兼3	
学位又は称号	博士(ヘルスデータサイエンス)			学位又は学科の分野			理学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
必修科目18単位、選択科目から2単位以上を修得し、合計20単位以上修得すること。							1 学年の学期区分				2 学期				
							1 学期の授業期間				15 週				
							1 時限の授業時間				90 分				

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教育課程等の概要

（データサイエンス研究科 データサイエンス専攻 博士前期課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
必修科目	統計学特論	1前	2			○			1							
	機械学習特論	1後	2			○			1						兼2	
	データマニング特論	1後	2			○			1						兼1	
	デザイン思考特論	1前	1			○			1							
	応用倫理学	1前	1			○									兼1	
	実践的データサイエンス演習Ⅰ	1前	2				○		7	2						
	実践的データサイエンス演習Ⅱ	1後	2				○		7	2						
	実践的データサイエンス演習Ⅲ	2前	2				○		7	2						
	データサイエンス研究指導Ⅰ	1前	2				○		7	2						
	データサイエンス研究指導Ⅱ	1後	2				○		7	2						
	データサイエンス研究指導Ⅲ	2前	2				○		7	2						
	データサイエンス研究指導Ⅳ	2後	2				○		7	2						
	修士論文	2後	0				○		7	2						
小計（13科目）	—	—	22	0	0	—	—	—	7	2	0	0	0	兼4		
選択科目	多変量統計解析特論	1前		2		○			1						兼1	
	最適化の基礎と応用特論	1前		2		○				1						
	時系列データ解析特論	1後		2		○			1							
	計算機統計学特論	1前		2		○			1							
	データ可視化特論	1後		2		○			1	1					オムニバス	
	自然言語処理特論	1後		2		○			1							
	クラウドコンピューティング特論	1前		2		○			1							
	プログラミング特論	1前		2		○				1						
	実験とシミュレーション特論	1後		2		○			1						オムニバス	
	ビッグデータ処理基盤特論	1後		2		○			1						兼1	
	非構造化データ特論	1後		2		○			1							
	標本調査特論	1前		2		○			1							
	実験計画と因果推論特論	1前		2		○			1						兼1	
	都市環境データ解析特論	1後		2		○			1							
	データサイエンス展開特別講義	1・2前・後		1		○			1						集中	
	データエンジニアリング特別講義	1・2前・後		1		○			1						集中	
	データアナリティクス特別講義	1・2前・後		1		○			1						集中	
	人工知能特論	2前		1		○									兼1	
	臨床試験方法論	2後		1		○									兼1	
	バイオインフォマティクス	2後		1		○									兼1	
	ビジネス・マネジメント	1前		2		○									兼1	
	eビジネス・マネジメント	1・2後		2		○									兼1	
	知覚情報科学特論Ⅰ	1・2前		1		○									兼1	
	知覚情報科学特論Ⅱ	1・2後		1		○									兼1	
	知覚情報科学特論Ⅲ	1・2前・後		1		○									兼1	集中
	計算物質科学特論Ⅰ	1・2後		1		○									兼1	
	計算物質科学特論Ⅱ	1・2後		1		○									兼1	
	計算物質科学特論Ⅲ	1・2前		1		○									兼1	
小計（28科目）	—	—	0	44	0	—	—	—	6	2	0	0	0	兼14		

教育課程等の概要

（データサイエンス研究科 データサイエンス専攻 博士前期課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
自由科目	大学院・キャリア形成実習	1・2集中			1			○							兼2	自由科目につき修了単位に含まず。
	大学院・日本語入門Ⅰ	1・2前・後			2			○							兼1	
	大学院・日本語入門Ⅱ	1・2前・後			2			○							兼1	
	大学院・日本語Ⅰ	1・2前・後			2			○							兼1	
	大学院・日本語Ⅱ	1・2前・後			2			○							兼1	
	大学院・日本語Ⅲ	1・2前・後			2			○							兼1	
	大学院・日本語実践	1・2前・後			1			○							兼1	
小計（7科目）	—	—	0	0	12			—	0	0	0	0	0	0	兼3	
合計（48科目）			—	22	44	12		—	7	2	0	0	0	0	兼21	
学位又は称号	修士（データサイエンス）		学位又は学科の分野				理学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
必修科目22単位、選択科目から8単位以上を修得し、合計30単位以上修得すること。							1 学年の学期区分			2 学期						
							1 学期の授業期間			15週						
							1 時限の授業時間			90分						

（注）

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要															
(データサイエンス研究科 データサイエンス専攻 博士後期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
必修科目	データサイエンス特別講義Ⅰ	1前	2			○			7	2					オムニバス オムニバス
	データサイエンス特別講義Ⅱ	1後	2			○			7	2					
	データサイエンス特別演習Ⅰ	1前	2				○		7	2					
	データサイエンス特別演習Ⅱ	1後	2				○		7	2					
	データサイエンス特別演習Ⅲ	2前	2				○		7	2					
	データサイエンス特別研究指導Ⅰ	2前	2				○		7	2					
	データサイエンス特別研究指導Ⅱ	2後	2				○		7	2					
	データサイエンス特別研究指導Ⅲ	3前	2				○		7	2					
	データサイエンス特別研究指導Ⅳ	3後	2				○		7	2					
小計(9科目)		—	18	0	0	—			7	2	0	0		兼0	
選択科目	データサイエンス特別講究A	1・2・3前		2		○			1						オムニバス
	データサイエンス特別講究B	1・2・3後		2		○			1	1					オムニバス
	データサイエンス特別講究C	1・2・3前		2		○			4						オムニバス
	データサイエンス特別講究D	1・2・3後		2		○			1	1					オムニバス
小計(4科目)		—	0	8	0	—			7	2	0	0	0	兼0	
自由科目	大学院・キャリア形成実習	1・2・3集中			1			○							兼2
	大学院・日本語入門Ⅰ	1・2・3前・後			2	○									兼1
	大学院・日本語入門Ⅱ	1・2・3前・後			2	○									兼1
	大学院・日本語Ⅰ	1・2・3前・後			2	○									兼1
	大学院・日本語Ⅱ	1・2・3前・後			2	○									兼1
	大学院・日本語Ⅲ	1・2・3前・後			2	○									兼1
	大学院・日本語実践	1・2・3前・後			1	○									兼1
小計(7科目)		—	0	0	12	—			0	0	0	0	0	兼3	
合計(20科目)		—	18	8	0	—			7	2	0	0	0	兼3	
学位又は称号	博士(データサイエンス)		学位又は学科の分野			理学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
必修科目18単位、選択科目から2単位以上を修得し、合計20単位以上修得すること。						1学年の学期区分				2学期					
						1学期の授業期間				15週					
						1時限の授業時間				90分					

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要														
(データサイエンス研究科 ヘルスデータサイエンス専攻 博士前期課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
必修科目	生物統計学Ⅰ	1前	2			○			1					
	研究デザイン学	1前	2			○			1					
	ヘルス情報テクノロジー学	1前	2			○				2				
	研究倫理	1前	1			○				1				
	ヘルスデータサイエンス研究演習Ⅰ	1後	2				○		2	3	2	1		兼1 共同
	ヘルスデータサイエンス研究演習Ⅱ	2前	2				○		2	3	2	1		兼1 共同
	特別研究科目Ⅰ	1前	2				○		2	3	2			兼1 共同
	特別研究科目Ⅱ	1後	2				○		2	3	2			兼1 共同
	特別研究科目Ⅲ	2前	2				○		2	3	2			兼1 共同
	特別研究科目Ⅳ	2後	2				○		2	3	2			兼1 共同
	修士論文	2後	0				○		2	3	2			
小計(11科目)		—	19	0	0	—		2	3	2	1		兼1	
選択科目	医療制度・医療技術評価Ⅰ	1前		2		○				1				
	医療制度・医療技術評価Ⅱ	2前		2		○								今年度休講(受講者なし)
	プライマリ・ケア研究指導Ⅰ	1前		1		○					1			
	プライマリ・ケア研究指導Ⅱ	1後		1		○					1			
	生物統計学Ⅱ	1後		2		○						1		
	臨床計量学	1後		1		○								兼1
	観察研究データ解析	1後		1		○								兼1
	ビッグデータ解析	1後		1		○					1			
	データベース開発演習	1後		2			○				1			
	エビデンス計量評価論Ⅰ	1前		2		○					1			
	エビデンス計量評価論Ⅱ	1後		2		○					1			
	臨床予測モデル入門	2前		1		○			1					
	医療経営分析論	2前		2		○					1			
	ヘルステクノロジーアセスメント	2前		2		○					1			
	アカデミックライティング	2前		1		○						1		
	臨床試験方法論	2後		1		○								兼1
	バイオインフォマティクス	2後		1		○								兼1
	データ可視化特論	1後		2		○								兼2 オムニバス
	プログラミング特論	1前		2		○								兼1
	実験計画と因果推論特論	1前		2		○								兼1
	ビジネス・マネジメント	1前		2		○								兼1
	eビジネス・マネジメント	1・2後		2		○								兼1
	知覚情報科学特論Ⅰ	1・2前		1		○								兼1
	知覚情報科学特論Ⅱ	1・2後		1		○								兼1
	知覚情報科学特論Ⅲ	1・2前・後		1		○								兼1 集中
小計(25科目)		—	0	38	0	—		1	3	2	1	0	兼13	
自由科目	大学院・キャリア形成実習	1・2集中			1			○						兼2
	大学院・日本語入門Ⅰ	1・2前・後			2	○								兼1
	大学院・日本語入門Ⅱ	1・2前・後			2	○								兼1
	大学院・日本語Ⅰ	1・2前・後			2	○								兼1
	大学院・日本語Ⅱ	1・2前・後			2	○								兼1
	大学院・日本語Ⅲ	1・2前・後			2	○								兼1
	大学院・日本語実践	1・2前・後			1	○								兼1
	小計(7科目)		—	0	0	12	—		0	0	0	0	0	兼3
合計(43科目)		—	19	38	12	—		2	3	2	1	0	兼17	
学位又は称号	修士(ヘルスデータサイエンス)		学位又は学科の分野				理学関係							

教育課程等の概要

（データサイエンス研究科 ヘルスデータサイエンス専攻 博士前期課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
必修科目19単位、選択科目から11単位以上を修得、合計30単位以上修得すること。						1 学年の学期区分				2学期				
						1 学期の授業期間				15週				
						1 時限の授業時間				90分				

（注）

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要														
(生命ナノシステム科学研究科 物質システム科学専攻 博士前期課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
必修科目	生命ナノシステム科学総論	1前	2			○			2	2				兼5
	物質システム科学序説	1前	2			○			3	1				
	英語プレゼンテーション技術	1後	2			○			1	3				
	物質システム科学特別研究	1～2前・後	8				○		9	9				兼5 集中
	物質システム科学特別演習	1～2前・後	4				○		9	10				兼5 集中
	小計（5科目）	—	—	18	0	0	—	—	9	10	0	0	0	兼10
選択必修科目	A ナノ物質創製科学概説	1後		2		○			2	2				
	A ナノバイオ物質科学概説	1後		2		○				4				
	A 予測・感覚情報科学概説	1後		2		○			2	2				
	B ナノ物質創製評価実習	1前		1				○	3	4				
	B ナノ構造分析実習	1前		1				○	3	3				
	B 情報計算実習	1前		1				○	2	3				
	C 科学技術コミュニケーション序論	1・2前		1		○								兼1
	C サイエンスマネジメント論	1・2前・後		1		○								兼1 集中
	C 特許出願の実際	1・2前・後		1		○								兼1 集中
	C 応用倫理学	1・2前		1		○								兼1
小計（10科目）	—	—	0	13	0	—	—	8	10	0	0	0	兼4	
選択科目	量子表面科学特論Ⅰ	1・2前		1		○								
	量子表面科学特論Ⅱ	1・2前		1		○			1					
	量子表面科学特論Ⅲ	1・2前・後		1		○								兼3 集中
	量子表面科学特論Ⅳ	1・2前		1		○								兼1
	ナノ物質科学特論Ⅰ	1・2前		1		○			1					
	ナノ物質科学特論Ⅱ	1・2後		1		○				1				
	ナノ物質科学特論Ⅲ	1・2前		1		○								
	ナノ物質科学特論Ⅳ	1・2後		1		○			1					
	ナノ物質科学特論Ⅴ	1・2前・後		1		○								兼1 集中
	光物質科学特論Ⅰ	1・2前		1		○								
	光物質科学特論Ⅱ	1・2前		1		○			1					
	光物質科学特論Ⅲ	1・2前		1		○				1				
	物質計測科学特論Ⅰ	1・2前		1		○				1				
	物質計測科学特論Ⅱ	1・2後		1		○				1				
	物質計測科学特論Ⅲ	1・2後		1		○			1					
	有機物質科学特論Ⅰ	1・2前		1		○								
	有機物質科学特論Ⅱ	1・2前		1		○			1					
	有機物質科学特論Ⅲ	1・2前		1		○				1				
	計算物質科学特論Ⅰ	1・2後		1		○			1					
	計算物質科学特論Ⅱ	1・2後		1		○				1				
	計算物質科学特論Ⅲ	1・2前		1		○				1				
	計算物質科学特論Ⅳ	1・2前・後		1		○								兼1 集中
	集積情報科学特論Ⅰ	1・2前		1		○			1					
集積情報科学特論Ⅱ	1・2後		1		○				1					

教育課程等の概要

（生命ナノシステム科学研究科 物質システム科学専攻 博士前期課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
選択科目	知覚情報科学特論Ⅰ	1・2前		1		○			1						兼1 兼1 集中 兼1 兼1 兼1 集中 集中 集中
	知覚情報科学特論Ⅱ	1・2後		1		○									
	知覚情報科学特論Ⅲ	1・2前・後		1		○									
	生物物理学特論Ⅰ	1・2後		1		○				1					
	大学院特別講義（物質システム科学特別講義Ⅰ）	1・2前・後		1		○									
	大学院特別講義（物質システム科学特別講義Ⅱ）	1・2前・後		1		○									
	大学院特別講義（物質システム科学特別講義Ⅲ）	1・2前・後		1		○									
	インターンシップ	1・2前・後		1			○		1						
	国際リトリート	1・2前・後		1			○		1						
	マテリアルインフォマティクス	1・2前		1		○			1	1					
小計（34科目）		—	0	34	0	—			9	10	0	0	0	兼11	
自由科目	教科指導の研究	1・2後			2	○								兼1	
	理科教育ケーススタディ	1・2後			2	○								兼1	
	大学院・キャリア形成実習	1・2集中			1			○						兼2	
	大学院・日本語入門Ⅰ	1・2前・後			2	○								兼1	
	大学院・日本語入門Ⅱ	1・2前・後			2	○								兼1	
	大学院・日本語Ⅰ	1・2前・後			2	○								兼1	
	大学院・日本語Ⅱ	1・2前・後			2	○								兼1	
	大学院・日本語Ⅲ	1・2前・後			2	○								兼1	
	大学院・日本語実践	1・2前・後			1	○								兼1	
	小計（9科目）		—	0	0	16	—			0	0	0	0	0	兼4
合計（58科目）		—	18	47	16	—			9	10	0	0	0	兼20	
学位又は称号		修士(理学)			学位又は学科の分野			理学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
必修科目18単位、選択必修科目Aから4単位以上、選択必修科目Bから1単位以上、選択必修科目Cから1単位以上、選択科目から6単位以上を修得し、合計30単位以上修得すること。							1 学年の学期区分			2 学期					
							1 学期の授業期間			15週					
							1 時限の授業時間			90分					

（注）

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教育課程等の概要

（生命ナノシステム科学研究科 物質システム科学専攻 博士後期課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
必修科目	物質システム科学研究序説Ⅰ	1前	2			○			4	1					兼4
	物質システム科学研究序説Ⅱ	1後	2			○			4	2					兼1
	物質システム科学特別研究	1～3前・後	8				○		9	3					兼5 集中
	物質システム科学特別演習	1～3前・後	6				○		9	3					兼5 集中
	小計（4科目）	—	18	0	0	—	—	—	9	3	0	0	0	兼5	
選択科目	量子表面科学講究Ⅰ	1・2・3後		2		○									
	量子表面科学講究Ⅱ	1・2・3前		2		○			1						
	量子表面科学講究Ⅲ	1・2・3後		2		○								兼3	オムニバス
	ナノ物質科学講究Ⅰ	1・2・3前		2		○			1						
	ナノ物質科学講究Ⅱ	1・2・3前・後		2		○									
	ナノ物質科学講究Ⅲ	1・2・3後		2		○									
	ナノ物質科学講究Ⅳ	1・2・3後		2		○			1						
	ナノ物質科学講究Ⅴ	1・2・3前・後		2		○								兼1	集中
	光物質科学講究Ⅰ	1・2・3後		2		○			1						
	光物質科学講究Ⅱ	1・2・3前		2		○				1					
	物質計測科学講究Ⅰ	1・2・3前・後		2		○									
	有機物質科学講究Ⅰ	1・2・3前・後		2		○									
	有機物質科学講究Ⅱ	1・2・3後		2		○			1						
	計算物質科学講究Ⅰ	1・2・3後		2		○			1						
	計算物質科学講究Ⅱ	1・2・3前		2		○				1					
	計算物質科学講究Ⅲ	1・2・3前・後		2		○								兼1	集中
	集積情報科学講究Ⅰ	1・2・3後		2		○			1						
	知覚情報科学講究Ⅰ	1・2・3後		2		○			1						
	マテリアルインフォマティクス	1・2・3前		1		○			1	1					オムニバス
小計（19科目）	—	0	37	0	—	—	—	9	2	0	0	0	兼5		

教育課程等の概要															
(生命ナノシステム科学研究科 物質システム科学専攻 博士後期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
自由科目	国際リトリート	1・2・3前・後			1			○		1					集中
	科学技術コミュニケーション序論	1・2・3前			1	○									兼1
	サイエンスマネジメント論	1・2・3前・後			1	○									兼1
	特許出願の実際	1・2・3前・後			1	○									兼1
	応用倫理学	1・2・3前			1	○									兼1
	大学院・キャリア形成実習	1・2・3集中			1			○							兼2
	大学院・日本語入門Ⅰ	1・2・3前・後			2	○									兼1
	大学院・日本語入門Ⅱ	1・2・3前・後			2	○									兼1
	大学院・日本語Ⅰ	1・2・3前・後			2	○									兼1
	大学院・日本語Ⅱ	1・2・3前・後			2	○									兼1
	大学院・日本語Ⅲ	1・2・3前・後			2	○									兼1
	大学院・日本語実践	1・2・3前・後			1	○									兼1
小計（12科目）		—	0	0	17	—			1	0	0	0	0	兼7	
合計（35科目）		—	18	37	17	—			9	3	0	0	0	兼12	
学位又は称号	博士(理学)		学位又は学科の分野			理学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
必修科目18単位、選択科目から2単位以上を修得し、合計20単位以上修得すること。						1学年の学期区分			2学期						
						1学期の授業期間			15週						
						1時限の授業時間			90分						

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

教育課程等の概要															
(生命ナノシステム科学研究科 生命環境システム科学専攻 博士前期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
必修科目	生命ナノシステム科学総論	1前	2			○			3						兼5
	生命環境システム科学概説Ⅰ	1前	2			○			3	3					兼1
	生命環境システム科学概説Ⅱ	1前	2			○			1	2					兼3
	生命環境システム科学特別研究	1～2前・後	8				○		11	6					兼10 集中
	生命環境システム科学特別演習	1～2前・後	4				○		11	6					兼10 集中
	小計（5科目）	—	18	0	0		—		11	6	0	0	0		兼13
選択必修科目	A 生命環境システム科学概説Ⅲ	1前	2			○			3	1					兼4
	生命環境システム科学概説Ⅳ	1前	2			○			4	1					兼2
	B 英語プレゼンテーション技術Ⅰ	1前・後		2		○			3	4					兼5 集中
	英語プレゼンテーション技術Ⅱ	1前・後		2		○			8	3					兼5 集中
	生物機能実習	1前・後		1				○		4		1			集中
	生体解析実習	1前・後		1				○		2		2			集中
	生命情報実習	1前・後		1				○							兼6 集中
	極限環境実習	1前・後		1				○							兼5 集中
	C 科学技術行政特論	1・2前・後		1			○								兼1 集中
	科学技術コミュニケーション序論	1・2前・後		1			○								兼1 集中
	バイオ知財管理特論	1・2前・後		1			○								兼1 集中
	応用倫理学	1・2前		1			○								兼1
	小計（12科目）	—	4	12	0		—		11	6	0	3	0		兼16
	選択科目	ゲノム科学特論Ⅰ	1・2前・後		1		○								
ゲノム科学特論Ⅱ		1・2前・後		1		○									兼2 集中
ゲノム科学特論Ⅲ		1・2前・後		1		○									兼3
ゲノム科学特論Ⅳ		1・2後		1		○				1					
遺伝資源科学特論Ⅰ		1・2前		1		○			1						
遺伝資源科学特論Ⅱ		1・2前・後		1		○									兼1 集中
遺伝資源科学特論Ⅲ		1・2前		1		○				1					
応用ゲノム科学特論Ⅰ		1・2後		1		○			1						
応用ゲノム科学特論Ⅱ		1・2前・後		1		○									兼1 集中
応用ゲノム科学特論Ⅲ		1・2後		1		○			1						兼1
応用ゲノム科学特論Ⅳ		1・2前・後		1		○									兼1 集中
応用ゲノム科学特論Ⅴ		1・2前		1		○				1					
極限環境ゲノム科学特論Ⅰ		1・2前・後		1		○									兼1 集中
極限環境ゲノム科学特論Ⅱ		1・2前・後		1		○									兼1 集中
極限環境ゲノム科学特論Ⅲ		1・2前・後		1		○									兼1 集中
極限環境ゲノム科学特論Ⅳ		1・2前・後		1		○									兼1 集中
極限環境ゲノム科学特論Ⅴ		1・2前・後		1		○									兼1 集中
バイオプロダクト科学特論Ⅰ		1・2後		1		○			1						
バイオプロダクト科学特論Ⅱ		1・2後		1		○			1						
バイオプロダクト科学特論Ⅲ		1・2前・後		1		○									
バイオプロダクト科学特論Ⅳ	1・2前・後		1		○										
環境システム科学特論Ⅰ	1・2前		1		○			1							
環境システム科学特論Ⅱ	1・2前		1		○										
環境システム科学特論Ⅲ	1・2前		1		○			1							
環境システム科学特論Ⅳ	1・2後		1		○			1							

教育課程等の概要														
(生命ナノシステム科学研究科 生命環境システム科学専攻 博士前期課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
選択科目	発生システム制御科学特論Ⅰ	1・2前		1		○			1					
	発生システム制御科学特論Ⅱ	1・2後		1		○			1					
	発生システム制御科学特論Ⅲ	1・2後		1		○				1				
	発生システム制御科学特論Ⅳ	1・2前・後		1		○								
	分子細胞ネットワーク科学特論Ⅰ	1・2前・後		1		○			1					
	分子細胞ネットワーク科学特論Ⅱ	1・2前		1		○				1				
	分子細胞ネットワーク科学特論Ⅲ	1・2後		1		○				1				
	分子細胞ネットワーク科学特論Ⅳ	1・2前・後		1		○								
	大学院特別講義	1・2前・後		1		○								
	インターンシップ	1・2前・後		1				○		1				集中
国際リトリート	1・2前・後		1				○		1				集中	
小計 (36科目)		—	0	36	0				11	6	0	0	0	兼14
自由科目	教科指導の研究	1・2後			2	○								兼1
	理科教育ケーススタディ	1・2後			2	○								兼1
	マテリアルインフォマティクス	1・2前			1	○								兼2
	大学院・キャリア形成実習	1・2集中			1			○						兼2
	大学院・日本語入門Ⅰ	1・2前・後			2	○								兼1
	大学院・日本語入門Ⅱ	1・2前・後			2	○								兼1
	大学院・日本語Ⅰ	1・2前・後			2	○								兼1
	大学院・日本語Ⅱ	1・2前・後			2	○								兼1
	大学院・日本語Ⅲ	1・2前・後			2	○								兼1
	大学院・日本語実践	1・2前・後			1	○								兼1
小計 (9科目)		—	0	0	17				0	0	0	0	0	兼6
合計 (62科目)			—	22	48	17			11	6	0	3	0	兼28
学位又は称号	修士(理学)		学位又は学科の分野			理学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
必修科目18単位、選択必修科目Aのうち「生命環境システム概説Ⅲ、Ⅳ」から2単位以上、選択必修科目Bのうち「英語プレゼンテーション技術Ⅰ、Ⅱ」から2単位以上、その他の科目から1単位以上、選択必修科目Cから2単位以上、選択科目から5単位以上を修得し、合計30単位以上修得すること。						1 学年の学期区分			2 学期					
						1 学期の授業期間			15週					
						1 時限の授業時間			90分					

(注)

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教育課程等の概要

（生命ナノシステム科学研究科 生命環境システム科学専攻 博士後期課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
必修科目	生命環境システム科学特別講義Ⅰ	1前	2			○			4	2				兼4	集中
	生命環境システム科学特別講義Ⅱ	1後	2			○			8	2				兼5	集中
	生命環境システム科学特別研究	1～3前・後	8				○		11	4				兼9	集中
	生命環境システム科学特別演習	1～3前・後	6				○		11	4				兼9	集中
	小計（4科目）	—	18	0	0	—	—	—	11	4	0	0	0	兼9	
選択科目	ゲノム科学講究Ⅰ	1・2・3前後		2		○									
	ゲノム科学講究Ⅱ	1・2・3前後		2		○								兼1	集中
	ゲノム科学講究Ⅲ	1・2・3前後		2		○								兼1	集中
	ゲノム科学講究Ⅳ	1・2・3前		2		○				1					
	遺伝資源科学講究Ⅰ	1・2・3後		2		○			1						
	遺伝資源科学講究Ⅱ	1・2・3前後		2		○								兼1	集中
	遺伝資源科学講究Ⅲ	1・2・3前		2		○				1					
	応用ゲノム科学講究Ⅰ	1・2・3後		2		○			1						
	応用ゲノム科学講究Ⅱ	1・2・3前後		2		○								兼1	集中
	応用ゲノム科学講究Ⅲ	1・2・3前		2		○			1						
	応用ゲノム科学講究Ⅳ	1・2・3前後		2		○								兼1	集中
	応用ゲノム科学講究Ⅴ	1・2・3前後								1					
	極限環境ゲノム科学講究Ⅰ	1・2・3前後		2		○								兼1	集中
	極限環境ゲノム科学講究Ⅱ	1・2・3前後		2		○								兼1	集中
	極限環境ゲノム科学講究Ⅲ	1・2・3前後		2		○								兼1	集中
	極限環境ゲノム科学講究Ⅳ	1・2・3前後		2		○								兼1	集中
	極限環境ゲノム科学講究Ⅴ	1・2・3前後		2		○									
	バイオプロダクト科学講究Ⅰ	1・2・3後		2		○			1						
	バイオプロダクト科学講究Ⅱ	1・2・3前		2		○			1						
	バイオプロダクト科学講究Ⅲ	1・2・3前後		2		○									
	バイオプロダクト科学講究Ⅳ	1・2・3前後		2		○									
	環境システム科学講究Ⅰ	1・2・3後		2		○			1						
	環境システム科学講究Ⅱ	1・2・3前		2		○									
	環境システム科学講究Ⅲ	1・2・3前		2		○			1						
	環境システム科学講究Ⅳ	1・2・3前		2		○			1						
	発生システム制御科学講究Ⅰ	1・2・3前		2		○			1						
	発生システム制御科学講究Ⅱ	1・2・3後		2		○			1						
	発生システム制御科学講究Ⅲ	1・2・3後		2		○				1					
	発生システム制御科学講究Ⅳ	1・2・3前後		2		○									
	分子細胞ネットワーク科学講究Ⅰ	1・2・3前後		2		○			1						
	分子細胞ネットワーク科学講究Ⅱ	1・2・3前後		2		○									
	分子細胞ネットワーク科学講究Ⅲ	1・2・3前後		2		○									
	分子細胞ネットワーク科学講究Ⅳ	1・2・3前後		2		○									
	マテリアルインフォマティクス	1・2・3前		1		○									兼2
小計（34科目）	—	0	65	0	—	—	—	11	4	0	0	0	兼11		

教育課程等の概要

（生命ナノシステム科学研究科 生命環境システム科学専攻 博士後期課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
自由科目	国際リトリート	1・2・3前後			1		○		1						集中
	科学技術コミュニケーション序論	1・2・3前			1	○									兼1
	科学技術行政特論	1・2・3前後			1	○									兼1
	バイオ知財管理特論	1・2・3前後			1	○									兼1
	応用倫理学	1・2・3前			1	○									兼1
	大学院・キャリア形成実習	1・2・3集中			1			○							兼2
	大学院・日本語入門Ⅰ	1・2・3前・後			2	○									兼1
	大学院・日本語入門Ⅱ	1・2・3前・後			2	○									兼1
	大学院・日本語Ⅰ	1・2・3前・後			2	○									兼1
	大学院・日本語Ⅱ	1・2・3前・後			2	○									兼1
	大学院・日本語Ⅲ	1・2・3前・後			2	○									兼1
	大学院・日本語実践	1・2・3前・後			1	○									兼1
小計（12科目）	—	—	0	0	17	—	—	—							兼7
合計（50科目）	—	—	18	65	17	—	—	—	11	4	0	0	0		兼18
学位又は称号	博士(理学)		学位又は学科の分野				理学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
必修科目18単位、選択科目2単位以上を修得し、合計20単位以上修得すること。							1 学年の学期区分		2 学期						
							1 学期の授業期間		15週						
							1 時限の授業時間		90分						

（注）

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教育課程等の概要

（生命医科学研究科 生命医科学科学専攻 博士前期課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
必修科目	生命医科学総論Ⅰ	1前	2			○			10	5						オムニバス
	生命医科学総論Ⅱ	1前	2			○									兼15	オムニバス
	生命医科学特別研究	1～2前・後	8					○	12	8					兼19	共同（一部）
	生命医科学演習	1～2前・後	4					○	12	8		4			兼22	
	生命医科学リテラシー	1前	1			○			1							
	科学英語リテラシー	1前	1			○			1							
	生命医科学特別講義	1後	2			○			1							
	小計（7科目）	—	20	0	0	—	—	—	12	8	0	4	0	兼22		
選択必修科目	生命創薬科学概説Ⅰ	1前		1		○			1						兼1	オムニバス
	生命創薬科学概説Ⅱ	1前		1		○			1	2						オムニバス
	生命創薬科学概説Ⅲ	1前		1		○			1						兼1	オムニバス
	生命創薬科学概説Ⅳ	1前		1		○									兼2	オムニバス
	生体制御科学概説Ⅰ	1前		1		○			1	1					兼1	オムニバス
	生体制御科学概説Ⅱ	1前		1		○			1						兼1	オムニバス
	生体制御科学概説Ⅲ	1前		1		○									兼2	オムニバス
	生体制御科学概説Ⅳ	1前		1		○			1						兼2	オムニバス
	分子解析科学概説Ⅰ	1前		1		○			1	1						オムニバス
	分子解析科学概説Ⅱ	1前		1		○			2							オムニバス
	分子解析科学概説Ⅲ	1前		1		○			1						兼1	オムニバス
	分子解析科学概説Ⅳ	1前		1		○				1					兼1	オムニバス
	生命情報科学概説Ⅰ	1前		1		○			1						兼1	オムニバス
	生命情報科学概説Ⅱ	1前		1		○									兼3	オムニバス
	生命情報科学概説Ⅲ	1前		1		○			1						兼1	オムニバス
	生命情報科学概説Ⅳ	1前		1		○									兼2	オムニバス
小計（16科目）	—	0	16	0	—	—	—	11	7	0	0	0	兼19			
選択科目 A	構造生物学特論Ⅰ	1後		1		○			1							
	構造生物学特論Ⅱ	1後		1		○				1						
	機能構造科学特論Ⅰ	1後		1		○			1							
	機能構造科学特論Ⅱ	1後		1		○				1						
	生体膜ダイナミクス特論Ⅰ	1後		1		○			1							
	構造創薬科学特論Ⅰ	1後		1		○			1							
	構造創薬科学特論Ⅱ	1後		1		○			1							
	構造エピゲノム科学特論Ⅰ	1後		1		○			1							
	構造エピゲノム科学特論Ⅱ	1後		1		○			1							
	生命情報科学特論Ⅰ	1後		1		○			1							
	生命情報科学特論Ⅱ	1後		1		○				1						
	分子細胞医科学特論Ⅰ	1後		1		○			1							
	分子細胞医科学特論Ⅱ	1後		1		○			1							
	創薬再生科学特論Ⅰ	1後		1		○			1							
	創薬再生科学特論Ⅱ	1後		1		○				1						
	創薬再生科学特論Ⅲ	1後		1		○				1						
	生体機能医科学特論Ⅰ	1後		1		○			1							
	生体機能医科学特論Ⅱ	1後		1		○				1						
	生体機能医科学特論Ⅲ	1後		1		○				1						
	細胞ネットワーク特論Ⅰ	1後		1		○									兼1	
	細胞ネットワーク特論Ⅱ	1後		1		○									兼1	
	構造細胞科学特論Ⅰ	1後		1		○									兼1	

教育課程等の概要

（生命医科学研究科 生命医科学専攻 博士前期課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
選択科目A	構造細胞科学特論Ⅱ	1後		1		○									兼1
	細胞構造ダイナミクス特論Ⅰ	1後		1		○									兼1
	細胞構造ダイナミクス特論Ⅱ	1後		1		○									兼1
	創薬分子科学特論Ⅰ	1後		1		○									兼1
	創薬分子科学特論Ⅱ	1後		1		○									兼1
	創薬有機化学特論Ⅰ	1後		1		○									兼1
	代謝エピゲノム科学特論Ⅰ	1後		1		○									兼1
	代謝エピゲノム科学特論Ⅱ	1後		1		○									兼1
	環境要因解析特論Ⅰ	1後		1		○									兼1
	環境要因解析特論Ⅱ	1後		1		○									兼1
	免疫生物学特論Ⅰ	1後		1		○									兼1
	免疫生物学特論Ⅱ	1後		1		○									兼1
	機能ゲノム科学特論Ⅰ	1後		1		○									兼1
	バイオイメージング特論Ⅰ	1後		1		○									兼1
バイオイメージング特論Ⅱ	1後		1		○									兼1	
小計（37科目）		—	0	37	0	—	—	—	12	7	0	0	0	兼18	
選択科目B	医科学特論	1前		1		○			1						兼8
	インターンシップ	1・2前・後		1			○		1						オムニバス集中
	小計（2科目）	—	0	2	0	—	—	—	2	0	0	0	0	兼8	
自由科目	教科指導の研究	1・2後			2	○									兼1
	理科教育ケーススタディ	1・2後			2	○									兼1
	大学院・キャリア形成実習	1・2集中			1			○							兼2
	大学院・日本語入門Ⅰ	1・2前・後			2	○									兼1
	大学院・日本語入門Ⅱ	1・2前・後			2	○									兼1
	大学院・日本語Ⅰ	1・2前・後			2	○									兼1
	大学院・日本語Ⅱ	1・2前・後			2	○									兼1
	大学院・日本語Ⅲ	1・2前・後			2	○									兼1
	大学院・日本語実践	1・2前・後			1	○									兼1
	小計（9科目）	—	0	0	16	—	—	—	0	0	0	0	0	兼4	
合計（71科目）	—	20	55	16	—	—	—	12	8	0	4	0	兼34		
学位又は称号	博士(理学)		学位又は学科の分野			理学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
必修科目20単位、選択必修科目8単位、選択科目A1単位、選択科目B1単位を修得し、合計30単位以上修得すること。						1学年の学期区分		2学期							
						1学期の授業期間		15週							
						1時限の授業時間		90分							

（注）

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教育課程等の概要

（生命医科学研究科 生命医科学専攻 博士後期課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
必修科目	生命医科学講究Ⅰ	1前・後	1			○			1						集中 集中
	生命医科学講究Ⅱ	2前・後	1			○			1						
	科学英語プレゼンテーション	1前・後	1			○			1						
	サイエンスマネジメント講究	1前・後	1			○			1						
	生命医科学特別研究	1～3前・後	8					○	12	7				兼19	
	生命医科学演習	1～3前・後	6					○	12	7				兼19	
	小計（6科目）			18	0	0	—			12	7	0	0	0	
選択科目	構造生物学講究Ⅰ	1前・後		2		○									
	構造生物学講究Ⅱ	1前・後		2		○				1					
	構造生物学講究Ⅲ	1前・後		2		○			1						
	細胞ネットワーク講究Ⅰ	1前・後		2		○								兼1	
	細胞ネットワーク講究Ⅱ	1前・後		2		○								兼1	
	生命情報科学講究Ⅰ	1前・後		2		○				1					
	生命情報科学講究Ⅱ	1前・後		2		○			1						
	環境要因解析講究Ⅰ	1前・後		2		○								兼1	
	環境要因解析講究Ⅱ	1前・後		2		○								兼1	
	構造創薬科学講究Ⅰ	1前・後		2		○			1						
	構造創薬科学講究Ⅱ	1前・後		2		○			1						
	創薬分子科学講究Ⅰ	1前・後		2		○								兼1	
	創薬分子科学講究Ⅱ	1前・後		2		○								兼1	
	創薬有機化学講究Ⅰ	1前・後		2		○								兼1	
	構造エピゲノム科学講究Ⅰ	1前・後		2		○			1						
	構造エピゲノム科学講究Ⅱ	1前・後		2		○			1						
	代謝エピゲノム科学講究Ⅰ	1前・後		2		○								兼1	
	代謝エピゲノム科学講究Ⅱ	1前・後		2		○								兼1	
	分子細胞医科学講究Ⅰ	1前・後		2		○			1						
	分子細胞医科学講究Ⅱ	1前・後		2		○			1						
	免疫生物学講究Ⅰ	1前・後		2		○								兼1	
	免疫生物学講究Ⅱ	1前・後		2		○								兼1	
	機能構造科学講究Ⅰ	1前・後		2		○			1						
	機能構造科学講究Ⅱ	1前・後		2		○				1					
	構造細胞科学講究Ⅰ	1前・後		2		○								兼1	
	構造細胞科学講究Ⅱ	1前・後		2		○								兼1	
	生体膜ダイナミクス講究Ⅰ	1前・後		2		○			1						
	細胞構造ダイナミクス講究Ⅰ	1前・後		2		○								兼1	
	細胞構造ダイナミクス講究Ⅱ	1前・後		2		○								兼1	
	創薬再生科学講究Ⅰ	1前・後		2		○			1						
	創薬再生科学講究Ⅱ	1前・後		2		○				1					
創薬再生科学講究Ⅲ	1前・後		2		○				1						
機能ゲノム科学講究Ⅰ	1前・後		2		○								兼1		
機能ゲノム科学講究Ⅱ	1前・後		2		○								兼1		

教育課程等の概要

（生命医科学研究科 生命医科学専攻 博士後期課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
選択科目	生体機能医科学講究Ⅰ	1前・後		2		○			1						
	生体機能医科学講究Ⅱ	1前・後		2		○				1					
	生体機能医科学講究Ⅲ	1前・後		2		○				1					
	バイオイメージング講究Ⅰ	1前・後		2		○									兼1
	バイオイメージング講究Ⅱ	1前・後		2		○									兼1
小計（39科目）			0	78	0	—			12	7	0	0	0	兼19	
自由科目	大学院・キャリア形成実習	1・2・3集中			1			○							兼2
	大学院・日本語入門Ⅰ	1・2・3前・後			2	○									兼1
	大学院・日本語入門Ⅱ	1・2・3前・後			2	○									兼1
	大学院・日本語Ⅰ	1・2・3前・後			2	○									兼1
	大学院・日本語Ⅱ	1・2・3前・後			2	○									兼1
	大学院・日本語Ⅲ	1・2・3前・後			2	○									兼1
	大学院・日本語実践	1・2・3前・後			1	○									兼1
小計（7科目）			0	0	12	—			0	0	0	0	0	兼3	
合計（52科目）			18	78	12	—			12	7	0	0	0	兼22	
学位又は称号	博士(理学)		学位又は学科の分野			理学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
必修科目18単位、選択科目2単位修得し、合計20単位以上修得すること。						1 学年の学期区分			2 学期						
						1 学期の授業期間			15週						
						1 時限の授業時間			90分						

（注）

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
(データサイエンス研究科ヘルスデータサイエンス専攻博士課程後期)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	ヘルスデータサイエンス特別講義Ⅰ	<p>(概要)</p> <p>1年次前期に必修科目として開講し、ヘルスデータサイエンスの柱である研究デザイン学、ヘルス情報テクノロジー学、生物統計学の各分野の博士論文を作成するために必要な研究方法論（一般化線形モデル、生存時間分析、研究デザインの型、交絡・バイアスなど）に関する専門性を涵養し、実践できる技術を習得するための講義を行う。</p> <p>(オムニバス、／全15回)</p> <p>(3 富田 誠／7回)</p> <p>研究方法論として、一般化線形モデル、生存時間分析などを講義する。</p> <p>(6 桑原 恵介／8回)</p> <p>研究方法論として、研究デザインの型、交絡・バイアスなどを講義する。</p>	オムニバス
	ヘルスデータサイエンス特別講義Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>1年次後期に必修科目として開講し、疾病予防・医療・介護などのヘルス分野に関わる様々な問題を、ヘルスデータサイエンスによりどのように解決できるのかについて、事例を通じた解説を行い、社会的に意義の大きい課題を発見し、解決するための研究をデザインする専門性を涵養する。</p> <p>(オムニバス形式／全15回)</p> <p>(1 後藤 温／1回)</p> <p>ヘルス領域の課題をヘルスデータサイエンスの手法で分析した事例を紹介しながら、研究課題の発見とその課題への対処法について解説する。</p> <p>(2 植田 真一郎／1回)</p> <p>ヘルス分野においてランダム化比較試験（RCT）を実施した事例を紹介し、RCTが適した研究課題の見つけ方とRCTの実施方法について解説する。</p> <p>(7 水原 敬洋／2回)</p> <p>医療全般における医薬品・医療機器の有効性・安全性に関して、疫学的手法を用いて分析した事例、既に研究が十分行われている分野に関してはエビデンスの統合と質の評価を行った事例を紹介し、エビデンス計量評価について解説する。</p> <p>(5 黒木 淳／2回)</p> <p>自治体等と連携したEvidence based policy making（EBPM）の事例を紹介し、政策立案に資する研究課題の発見とEBPMの進め方について解説する。</p> <p>(4 五十嵐 中／2回)</p> <p>医薬品・医療機器・手技など、広汎な医療技術の費用対効果の評価の事例を紹介し、その政策応用のあり方を解説する。</p> <p>(6 桑原 恵介／3回)</p> <p>ヘルス分野における諸問題を疫学的手法で分析した事例を紹介しながら、研究課題の発見とその課題への対処法について解説する。</p>	オムニバス

授 業 科 目 の 概 要			
（データサイエンス研究科ヘルスデータサイエンス専攻博士課程後期）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	ヘルスデータサイエンス特別講義Ⅱ	<p>(8 金子 惇 /3回) プライマリ・ケア領域を中心に患者の受療行動、セカンダリ・ケアとの連携などに関するヘルスサービス研究の事例を紹介し、研究の実施方法について解説する。</p> <p>(9 清水 沙友里 /1回) 大規模医療データベースを用いた臨床疫学分野のアウトカム研究及びヘルスサービス研究、並びに医療提供体制や医療保険制度のあり方に関する医療政策研究の事例を紹介し、研究の実施方法について解説する。</p>	オムニバス
必修科目	ヘルスデータサイエンス特別演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	<p>(概要) ヘルスデータサイエンスに関する博士論文の研究を計画・実行するために、1年次前期・1年次後期・2年次前期に、ゼミ形式で、各自の研究テーマに基づいた発展的な演習を指導教員より受ける。</p>	
		<p>(1 後藤 温) 研究デザイン学における、臨床医学や公衆衛生における重要な課題を抽出し、適切なデータを集め、理論疫学や統計学などを応用してデータを分析できるように、研究指導を行う。</p>	
		<p>(2 植田 真一郎) ヘルス情報テクノロジー学における、ヘルスデータサイエンスの諸課題に取り組むための、方法論を検討し、研究計画を立案し、実施できるように、研究指導を行う。</p>	
		<p>(3 富田 誠) 生物統計学における、データサイエンスおよび統計学に関するテキストを輪読する形で論述・議論を行い、必要な知識とスキルについて研究指導を行う。</p>	
		<p>(4 五十嵐 中) ヘルス情報テクノロジー学における、医薬品・医療機器・手技など、広汎な医療技術の費用対効果の評価、その政策応用のあり方や、医療技術の価値 (value) の測定の方法論の開発に関して、研究指導を行う。</p>	
		<p>(5 黒木 淳) ヘルス情報テクノロジー学における、病院・福祉施設等における多チャンネルからのデータ収集、それを通じた医療経営分析および会計情報分析等の定量的研究に関して、研究指導を行う。</p>	
		<p>(6 桑原 恵介) 研究デザイン学における、主体的に健康・医療上の課題を発見、分析し、対策を講じて解決していく能力を涵養する。</p>	
		<p>(7 水原 敬洋) 研究デザイン学における、医療全般における医薬品・医療機器の有効性・安全性に関して、疫学的手法を用いてエビデンスを構築できるように、研究指導を行う。さらに、既に研究が十分行われている分野に関してはエビデンスの統合と質を評価できるように研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(データサイエンス研究科ヘルスデータサイエンス専攻博士課程後期)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	ヘルスデータサイエンス 特別演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	(8 金子 惇) ヘルス情報テクノロジー学における、質の高いプライマリケア・総合診療の効率的・効率的な提供に関して、研究計画を立案し、実施することにより博士論文作成に向けた研究指導を行う。	
		(9 清水 沙友里) 生物統計学における、大規模医療データベースを用いた臨床疫学分野のアウトカム研究及びヘルスサービス研究、並びに医療提供体制や医療保険制度のあり方に関する医療政策研究の研究指導を行う。	
必修科目	ヘルスデータサイエンス 特別研究指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	(概要) ゼミ形式で、2年次前期・2年次後期・3年次前期・3年次後期に、博士論文完成のために研究指導を行うことを通じて、自立した研究者の養成を目指す。当該研究テーマについて自ら研究計画を立案し、それに基づいて研究を実施し、さらにその問題点を解決しながら研究を遂行する能力を身につけさせる。	
		(1 後藤 温) 研究デザイン学における、臨床医学や公衆衛生における重要な課題を抽出し、適切なデータを集め、理論疫学や統計学などを応用した研究に関して、研究計画を立案し、実施することにより博士論文作成に向けた研究指導を行う。	
		(2 植田 真一郎) ヘルス情報テクノロジー学における、ヘルスデータサイエンスの諸課題に取り組むための、方法論を検討し、研究計画を立案し、実施することにより博士論文作成に向けた研究指導を行う。	
		(3 富田 誠) 生物統計学における、データサイエンス、空間疫学や遺伝統計学などの最先端の論文をサーベイしつつ、独自のリサーチクエスションへ適用する。学会発表やジャーナル誌投稿を進めながら研究計画を立案し、実施することにより博士論文作成に向けた研究指導を行う。	
		(4 五十嵐 中) ヘルス情報テクノロジー学における、医薬品・医療機器・手技など、広汎な医療技術の費用対効果の評価、その政策応用のあり方や、医療技術の価値 (value) の測定の方法論の開発に関して、研究計画を立案し、実施することにより博士論文作成に向けた研究指導を行う。	
		(5 黒木 淳) ヘルス情報テクノロジー学における、病院・福祉施設等における多チャンネルからのデータ収集、それを通じた医療経営分析および会計情報分析等の定量的研究に関して、研究計画を立案し、実施することにより博士論文作成に向けた研究指導を行う。	
		(6 桑原 恵介) 研究デザイン学における、主体的に健康・医療上の課題について、研究計画を立案し、実施することにより博士論文作成に向けた研究指導を行う。	
		(7 水原 敬洋) 研究デザイン学における、医療全般における医薬品・医療機器の有効性・安全性に関して、疫学的手法を用いたエビデンスの構築、既に研究が十分行われている分野に関してはエビデンスの統合と質の評価に関する、研究計画を立案し、実施することにより博士論文作成に向けた研究指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
（データサイエンス研究科ヘルスデータサイエンス専攻博士課程後期）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	ヘルスデータサイエンス 特別研究指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	（8 金子 惇） ヘルス情報テクノロジー学における、質の高いプライマリケア・総合診療の効率的・効率的な提供に関して、研究計画を立案し、実施することにより博士論文作成に向けた研究指導を行う。	
		（9 清水 沙友里） 生物統計学における、大規模医療データベースを用いた臨床疫学分野のアウトカム研究及びヘルスサービス研究、並びに医療提供体制や医療保険制度のあり方に関する医療政策研究に関して、研究計画を立案し、実施することにより博士論文作成に向けた研究指導を行う。	
選択科目	ヘルスデータサイエンス 特別講究A	（概要） 1年次前期、2年次前期、3年次前期に選択科目として開講し、ヘルスデータサイエンスの高度な研究手法を解説する。高度な研究方法論を涵養し、実践できる技術を習得するための講義と演習を行う。 （オムニバス、全教員／全15回） （1 後藤 温／7回） 準実験デザインや因果媒介分析などの研究方法論の概念と理論を講義する。 （9 清水 沙友里／8回） 準実験デザインや因果媒介分析などの研究方法論を実践できる技術を習得するための講義と演習を行う。	オムニバス 講義：45時間 演習：45時間
	ヘルスデータサイエンス 特別講究B	（概要） 1年次前期、2年次前期、3年次前期に選択科目として開講し、ヘルス分野においてランダム化比較試験（RCT）などの臨床試験を実施した事例を紹介し、RCTが適した研究課題の見つけ方とRCTの実施方法について解説し、博士論文として、RCTを題材にした博士論文を執筆できるようにするための講義と演習を行う。 （オムニバス形式／全15回） （2 植田 真一郎／5回） 臨床試験方法論の講義と演習を行う。 （3 富田 誠／5回） 臨床試験の統計的事項の講義と演習を行う。 （7 水原 敬洋／5回） 臨床試験の実践方法の講義と演習を行う。	オムニバス 講義：45時間 演習：45時間

授 業 科 目 の 概 要			
(データサイエンス研究科ヘルスデータサイエンス専攻博士課程後期)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
自由科目	大学院・キャリア形成実習	横浜市の産業振興における課題を、外国籍留学生と日本人学生の混成チームで検討していく科目である。様々な文化的背景をもつ学生がチームを組み、横浜市内企業を取り巻く課題解決について討議していくことで、多様な価値観を尊重し協働に導くための力を養う。また、地域で働く社会人の多様な就業観を知ることで、学生生活の過ごし方と自らのキャリア形成について展望する。	主に外国人留学生向け、全研究科共通科目
	大学院・日本語入門Ⅰ	(英文) <ul style="list-style-type: none"> ・ Communicate with Japanese by using basic Japanese. ・ Do daily activities by Japanese. ・ Read and write Hiragana and Katakana. In this class, we study basic grammars and vocabulary, talk about you or your daily life by using them. In addition, we will discuss about some daily problem especially about Japanese language in living in Japan. (和訳) 基本的な文法と語彙を学び、それらを使って自分のことや日常生活について話します。加えて、日本で生活する中で出会うさまざまな問題（特に、日本語について）について話します。到達目標は次の3つです。 1) 基本的な日本語を使って、コミュニケーションできるようになる。 2) 買い物をする、電車に乗るなど、日本語を使って日常生活が送れるようになる。 3) ひらがなとカタカナが読めて、書けるようになる。	外国人留学生向け、全研究科共通科目
	大学院・日本語入門Ⅱ	(英文) <ul style="list-style-type: none"> ・ Communicate with people around you using the words and the grammars studied in class. ・ Express your opinion about daily topics in Japanese. ・ Understand talk or short essay by classmate(s). Comprehensive Japanese class for late-elementary or pre-intermediate: in this class, we study basic grammars and vocabulary, express your opinion about daily topics and communicate with the people around you in Japanese language. (和訳) 初級後半から中級前半のための、総合日本語クラスです。到達目標は次の3つです。 1) クラスで学んだ単語や文法を使って、周囲の人とコミュニケーションできるようになる。 2) 日常的なトピックについて、日本語で意見が言えるようになる。 3) クラスメートの話や短いエッセイが理解できるようになる。	外国人留学生向け、全研究科共通科目

授 業 科 目 の 概 要			
(データサイエンス研究科ヘルスデータサイエンス専攻博士課程後期)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
自由科目	大学院・日本語Ⅰ	中級レベルのための総合日本語クラスであり、初級までの文法や語彙を復習しながら、それを実際に使って4技能を総合的に伸ばす。これまでに学習した文法や語彙を使って、より長い文章を読んで理解する、まとまりのある長い話を聞く、自分の意見をわかりやすくまとめて話す・書く、自分にとって必要な単語や漢字を考え、自律的に学ぶことを目指す。	外国人留学生向け、全研究科共通科目
	大学院・日本語Ⅱ	これまでに学習した文法や語彙を使い、まとまりのある内容を読み、聞いて理解する、自分の意見を論理的に説得力を持って伝える、相手や場面に合った話し方・書き方ができることを目指す。中級後半レベルのための総合日本語クラスであり、これまでに学習した文法や語彙を復習しながら、それを実際に使い4技能を総合的に伸ばす。	外国人留学生向け、全研究科共通科目
	大学院・日本語Ⅲ	新聞記事の読解やディスカッションを通して、総合的な日本語力の向上と批判的思考力を身につける。辞書などを使って、日本語で書かれた新聞記事が読める、新聞に書かれた内容を短くまとめて他者にわかりやすく説明する、複数の新聞記事の比較やクラスでのディスカッションを通して、多様な視点で物事を批判的に捉えることを目指す。	外国人留学生向け、全研究科共通科目
	大学院・日本語実践	「書く」技能を伸ばすことを目的とし、提示されるトピックについてクラスで討論し、短い作文にまとめる。特に、分かりやすく論理的に書く能力を身につけることを目標とする。留学生の間違いやすいポイントについて、プリント教材での学習も行う。	外国人留学生向け、全研究科共通科目

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

公立大学法人横浜市立大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
横浜市立大学				→ 横浜市立大学				
国際教養学部 国際教養学科	270	-	1,080	国際教養学部 国際教養学科	270	-	1,080	
国際商学部 国際商学科	260	-	1,040	国際商学部 国際商学科	260	-	1,040	
理学部 理学科	120	-	480	理学部 理学科	120	-	480	
データサイエンス学部 データサイエンス学科	60	-	240	データサイエンス学部 データサイエンス学科	60	-	240	
医学部 医学科	90	-	540	医学部 医学科	90	-	540	
看護学科	100	-	400	看護学科	100	-	400	
大学計	900	-	3,780	大学計	900	-	3,780	
横浜市立大学大学院				→ 横浜市立大学大学院				
都市社会文化研究科 都市社会文化専攻 (博士前期課程)	20	-	40	都市社会文化研究科 都市社会文化専攻 (博士前期課程)	20	-	40	
(博士後期課程)	3	-	9	(博士後期課程)	3	-	9	
国際マネジメント研究科 国際マネジメント専攻 (博士前期課程)	20	-	40	国際マネジメント研究科 国際マネジメント専攻 (博士前期課程)	20	-	40	
(博士後期課程)	3	-	9	(博士後期課程)	3	-	9	
生命ナノシステム科学研究科 物質システム科学専攻 (博士前期課程)	30	-	60	生命ナノシステム科学研究科 物質システム科学専攻 (博士前期課程)	30	-	60	
(博士後期課程)	5	-	15	(博士後期課程)	5	-	15	
生命環境システム科学専攻 (博士前期課程)	30	-	60	生命環境システム科学専攻 (博士前期課程)	30	-	60	
(博士後期課程)	5	-	15	(博士後期課程)	5	-	15	
生命医科学研究科 生命医科学専攻 (博士前期課程)	40	-	80	生命医科学研究科 生命医科学専攻 (博士前期課程)	40	-	80	
(博士後期課程)	10	-	30	(博士後期課程)	10	-	30	
データサイエンス研究科 データサイエンス専攻 (博士前期課程)	20	-	40	データサイエンス研究科 データサイエンス専攻 (博士前期課程)	20	-	40	課程の設置(届出)
(博士後期課程)	3	-	9	(博士後期課程)	3	-	9	
ヘルスデータサイエンス専攻 (博士前期課程)	12	-	24	ヘルスデータサイエンス専攻 (博士前期課程)	12	-	24	
				(博士後期課程)	<u>3</u>	<u>-</u>	<u>9</u>	
医学研究科 医科学専攻 (修士課程)	20	-	40	医学研究科 医科学専攻 (修士課程)	20	-	40	
(博士課程)	80	-	320	(博士課程)	80	-	320	
看護学専攻 (博士前期課程)	25	-	50	看護学専攻 (博士前期課程)	25	-	50	
(博士後期課程)	6	-	18	(博士後期課程)	6	-	18	
大学院計	332	-	859	大学院計	335	-	868	